

# 地域経済を支える金融めざして一緒に頑張ろう

## 金融労連第13回全国大会で宮本徹衆議院議員が連帯のあいさつ

9月15日～16日に開催された金融労連第13回大会に衆議院の宮本徹議員（日本共産党）が来賓としてかけつけ連帯のあいさつを行いました。宮本議員はスルガ銀行の不正融資問題を被害者の訴えに基づいて国会で取り上げた経緯を説明。この問題は組織ぐるみの不正事件であり経営陣の関与が疑われることは明らかとし、これだけの組織的不正が金融庁の金融検査で見逃せる問題ではないと指摘。利益を上げさえすればよしとする金融行政の転換を訴えました。

### スルガ銀行問題 利益至上主義の組織的な不正行為

金融労連第13回全国大会開催まことにおめでとうございます。

金融労連のみなさんが基本理念として掲げている金融が果たすべき社会的・公共的役割を国民の立場にたって追及することが、今本当に大事になっていると思います。日本の金融業界全体にとっても、この理念が本当に大事になっていると思います。

私は今年に入ってから、スルガ銀行問題の被害者と言うべき皆さんから何度もお話を伺って、国会でも取り上げてまいりました。9月7日にスルガ銀行の第三者委員会の報告書が発表されました。あのシェアハウス投資をめぐる不正融資は、まさに組織的な行為であり、経営陣の関与が強く疑われることが明らかになりました。それと同時に、そこで行われていたスルガ銀行の内部の実態というものを、本当に多くの国民が衝撃をもって見ていると思います。

利益第一主義で過大なノルマを営業店に課し、行員に課し、成績が伸びない行員に対しては恐るべき暴言・パワハラが行われていた。「数字が出来ないならビルから飛び降りろ」とか「お前の家族を皆殺しにしてやる」という暴言。あるいは、ごみ箱を蹴り上げ、カップを投げつけるなど。これはもう犯罪行為じゃないですか。こういった恫喝パワハラによって追い込まれた行員の方々が通帳の改ざん処理などを行った。

わたくしはいろいろな資料を国会で取り上げましたが、そういう不正をしながら、融資を行っていた。さらには違法な抱き合わせ融資ですね。高い利率のフリーローンの抱き合わせ融資など、こういうものまで強いられていくことになっていた。まさにパワハラによって銀行全体のモラルが低下をして、不正の温床になっていたことが、あの報告書でもはっきりしていると思います。

### スルガ銀行だけの問題か

そして、スルガ銀行だけの問題なのかということが、先ほどの委員長のご挨拶の中でもありました。銀行が販売している投資信託の実際の損益を見たら、半分に近い方が実際はマイナスになっているという調査結果も発表されています。これは社会問題になっています。金融機関が手数料ビジネスに走っていることがこの調査結果からも明らかになっている。

金融労連が行っているアンケートを見ましたら、職場への不満、不安で2番目に多いのがリスク商品等のノルマの追及となっています。これが23.4%となっています。つまり国民を食い物にしている異常な経営が、働く労働者の皆さんへのノルマの強制、そしてパワハラと一体不可分なものになっているということではないでしょうか。逆に言えば金融労連のみなさんが、働きやすい職場を作っていく、パワハラ許ささない、過大なノルマの押しつけは許ささない。こういうたたかいはまさに国民の暮らしを守り、まともな金融を作っていくという大儀あるたたかいに

なっているのだと思います。

この皆さんのたたかいがますます発展されることを心から期待しますし、異常なパワハラとかノルマの押しつけとかがありましたら、わたくしたち国会議員団にぜひ実態などをお寄せいただきたいと思っています。

## スルガ銀行を「優良銀行」としてきた金融行政

これは私たち政治の責任として、金融庁の責任、安倍政権の責任も正していかなければいけないと考えています。私をはじめスルガ銀行の問題を国会で取り上げた時、麻生大臣はなんて言ったか。「うまい投資話にのったほうが悪い」と言ったんですね。およそ金融大臣としては失格だと言わなければいけない発言をしていました。そして金融庁は皆さんご存知の通り、このスルガ銀行を優良な銀行だと持ち上げていたわけですね。多くの金融機関が利益を上げるのに苦労している中で、大儲けしているのがスルガ銀行だということで持ち上げてきたわけです。

金融庁は地域金融機関を競争であおり、収益の低下で展望が見えない中で大儲けをあげているのがスルガ銀行なんだと。こういう短期的な利益追求の結果で金融機関を評価していた。そしてその一方で金融検査をしておきながら、スルガ銀行の不正の実態は見逃していた。こんなものは見逃せるような話じゃないです。何も検査していないのに等しいということじゃありませんか。私はこの金融庁の責任も正していきたいと思っています。そして、社会的、公共的役割を軽視し金融機関の競争をあおりたてるような今の金融庁の金融政策の転換を求めて頑張りたいと思っています。

## リストラ、店舗統廃合、ATM網再編は地域経済縮小につながる

それと同時に先ほどもお話にありましたが、安倍政権の異次元の金融緩和とマイナス金利政策をも正していかなければいけないと思います。

なぜ、金融機関がアパートローンや手数料ビジネスや、あるいはカードローンに走っていくことになったのか。その背景には間違いなくこの間のマイナス金利、異常な低金利政策で利ざやが縮小して儲け口を作ろうにも見つからなくなっている現状があります。間違いなく、この異次元の金融緩和、アベノミクスの政策は弊害のほうが大きいと言える状況になってきている。一部の富裕層と大企業は株高と円安で大儲けを上げましたが、国民にとっては実質賃金の低下と様々な弊害をもたらしたこのアベノミクスの転換に向けても、皆さんと一緒に力を合わせてたかかっていきたいと思っています。

もう一つ、先ほど委員長のほうからもお話がありましたが、この間の金融機関のリストラの動き、なかでも店舗統廃合、あるいはATM網の再編の動きが進んでいます。これは国民からすれば大変不便が増えていくことです。銀行の支店撤退に対して、ある町の町長さんが怒って5億円の貯金を全部引き上げたというお話がありました。こういう道は地域金融機関が地域経済で果たしている役割をどんどん縮小させる悪循環に落ちていく道だとわたくしたちは考えています。やはり地域金融機関に必要なのは、しっかりと資金を地域に還流させ、地域経済を活性化させる機能を強化していくことだと思います。短期的な利益の観点からしか、今の地域金融機関の良し悪しを見ないで再編を推し進める金融庁の政策は、地域経済にとってもマイナスになるということを追及していきたい。それと合わせて地域経済を活性化させていくためには、たまりにたまっている大企業の内部留保を賃上げで働いている皆さんに還元していく。そして異常な下請けいじめをやめさせて、下請け中小企業に還元させていく。このことが一番の道だと確信しています。金融労連のみなさんと一緒に、破綻したアベノミクスを転換させて金融行政を転換させる。そのために頑張っていくことをお約束申し上げまして、連帯のご挨拶とさせていただきます。